

令和2年度
調査研究・学習プログラム開発・普及事業

いばらき 地域応援 プログラム

茨城県水戸生涯学習センター

は じ め に

2020年は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、不要不急の外出自粛要請や緊急事態宣言、3密の回避や新しい生活様式の推奨など、私たちの日常生活が大きく変化しました。

その中で中央教育審議会生涯学習分科会より出された「第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」(令和2年9月)では、それぞれの場において、学びを止めないことの重要性が共有されるとともに、ICTなどの技術を活用した学びの新しい可能性が示されました。

また、学びを通じて個人の成長を期するとともに、他者と学び合い認め合うことで相互のつながりを形成していく社会教育の特徴を踏まえながら、今般の新型コロナウイルス感染症への対応を通じて、誰一人取り残されることなく生きがいを感じることでできる包摂的な社会を目指す生涯学習や社会教育の在り方が強く求められています。

この度は、令和元年度に作成した「いばらき地域応援プログラム」を見直し、高校生会の活性化につながる防災・安全に関するモデルプログラムを盛り込み改訂しました。各自治体及び生涯学習関連施設等の皆様をはじめ、様々な場で幅広く御活用いただき、地域の実情に応じた学習機会の提供や、職員の資質向上等にお役立ていただきましたら幸甚に存じます。

結びに、当プログラムの開発にあたり、御支援・御協力を賜りました関係機関の皆様に心より御礼申し上げます。

令和3年3月

茨城県水戸生涯学習センター 所長 小沼 公道



目次

I 「いばらき地域応援プログラム」について

- ① 学習プログラムのねらい 1
- ② 学習プログラムの必要性 2
- ③ 学習プログラムの活用にあたって 4

II モデルプログラム

- ① 親力アップを目指す家庭教育学級
～一人でも多くの保護者に届けるために～ 7
- ② 中学生の力を地域に活かす～ジュニアリーダーの育成を目指して～ 9
- ③ 地域のニーズに応える総合的な企画力のアップ
～企画の立て方，ミーティングの進め方，情報発信の仕方のコツ～ 11
- ④ 発達障害を理解し，できることを考えよう 13
- ⑤ 地域の本気が子どもを育てる～地域と共にある学校づくり～ 15
- ⑥ 高齢者も子どもも生き生きと！
体験活動をととした地域のつながりづくり 17
- ⑦ 高校生と一緒に学んでみよう！災害時のSOS～防災対策スマホの活用…… 19
- コラム 21

III Q&A

- ① 企画をする上で大事なことは何ですか 25
- ② 講座のアレンジはどうすればいいですか 30
- ③ どのようにすればたくさんの人が集まりますか 31
- ④ 講師の依頼はどうすればいいですか 32
- ⑤ 実施した事業（講座）の評価は，どのように捉えればいいですか 33
- 参考 34



「いばらき地域応援プログラム」 について

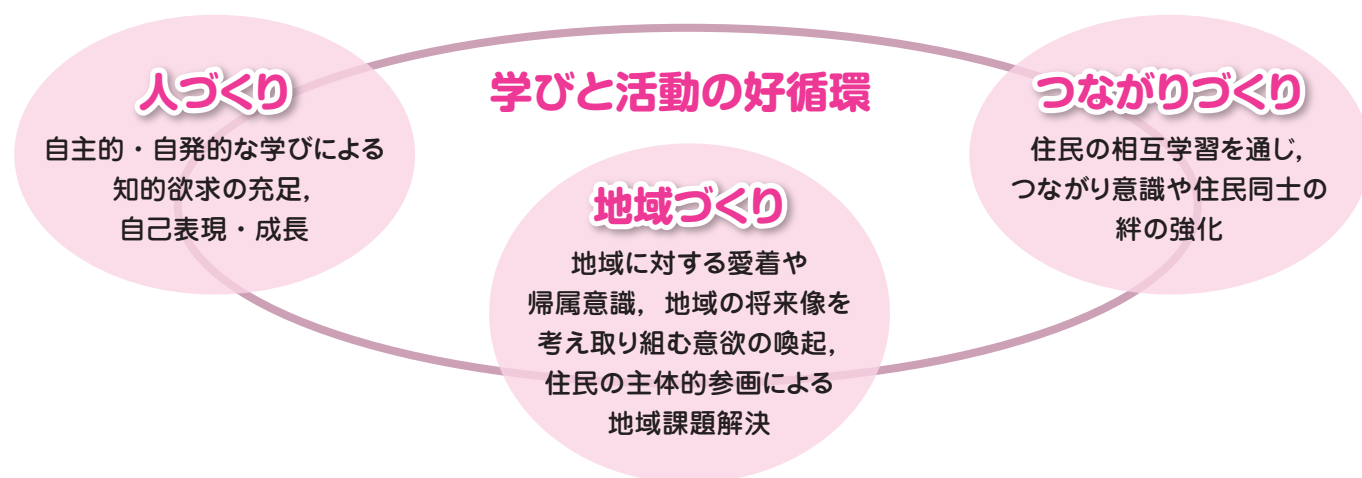
1 学習プログラムのねらい

(1) 中央教育審議会答申より

平成30年12月21日に出された「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」において、社会教育を通じた「人づくり」や「つながりづくり」は、地域を活性化し、住民が主体的に課題を発見し共有し解決していく持続的な「地域づくり」につながっていく意義を持つものであること、学びの成果を地域の活動の中で積極的に生かすことは、持続可能な学びと活動の循環につながっていくことが示されています。

人生100年時代を迎え、家族や学校、仕事に加え、地域での生きがいある活動に世代を問わず参加することは、一人一人の人生をより充実したものとする上で大きな意義を持つと考えられます。

社会教育：個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割



「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）概要」平成30年12月21日中央教育審議会より

(2) 第5次茨城県生涯学習推進計画より

平成28年3月に策定した第5次茨城県生涯学習推進計画において、「人口減少や超高齢化の進展は、地域社会において様々な影響を及ぼすことが懸念されており、その中で生じる地域課題を解決するためには、多くの人が共に学び、学び合いの中で豊かな人間関係を築き、協働して課題解決に取り組むことが重要である。」と示されています。

また、生涯学習を推進する人づくり・多様な学びの充実に向けての主な施策の一つとして、調査研究・学習プログラム開発・普及事業を挙げています。

上記のことから、県域の生涯学習の現状を調査研究するとともに、平成28年度より5年間、様々な現代的・地域課題を解決させるための効果的な学習プログラムを開発し、「地域応援プログラム」として市町村等への普及を図ることをねらいとしています。

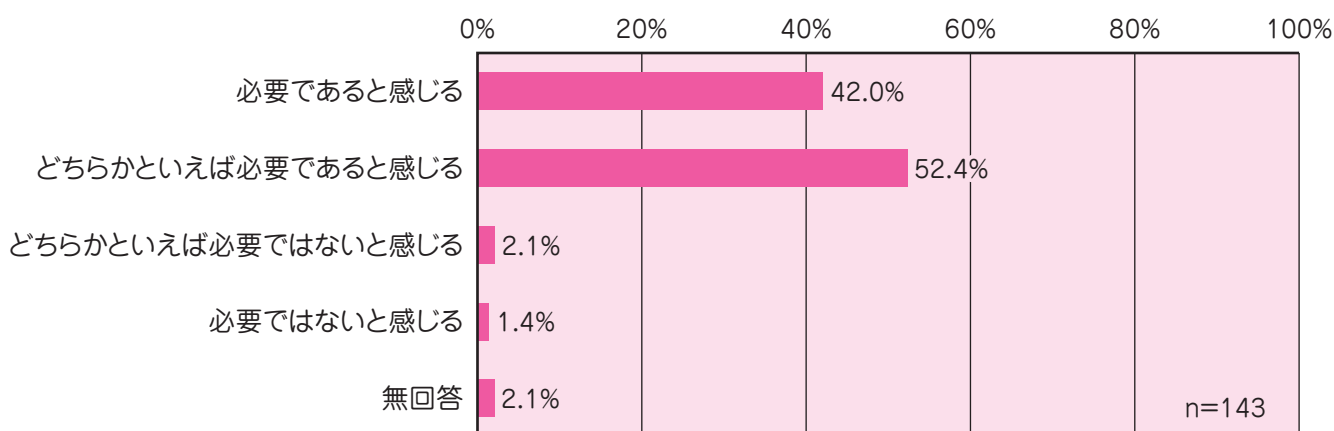
2 学習プログラムの必要性

令和元年8月、各市町村生涯学習・社会教育主管課と公民館等を対象に、「現代的・地域課題に対応した学習プログラムの開発と普及に関する調査」を実施し、144箇所（市町村34箇所、公民館等110箇所）から回答を得た結果は以下のとおりです。

(1) 地域課題に関する講座の提供の必要性について

●全体の約95%の職員が「どちらかといえば必要であると感じる」、「必要であると感じる」と回答しています。

地域課題に関する講座の提供の必要性について

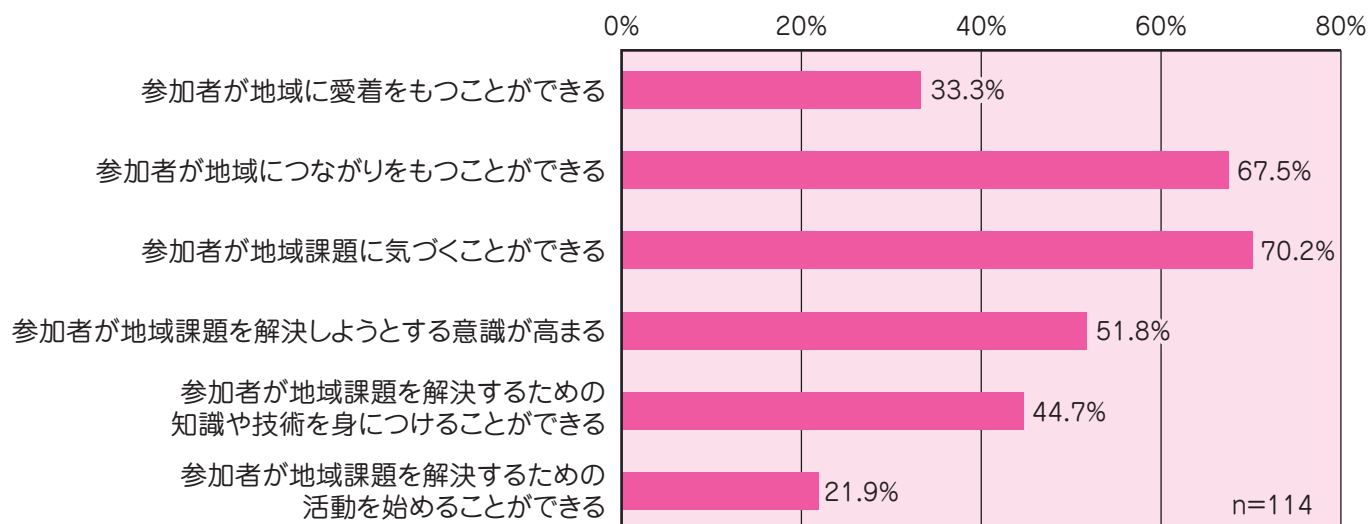


【図1 地域課題に関する講座の提供の必要性について】

(2) モデルプログラム実施により、期待できる成果について

●「参加者が地域課題に気づくことができる」、「参加者が地域につながりをもつことができる」等の成果が期待されているという回答が多いことが分かります。

モデルプログラム実施により、期待できる成果（複数回答）

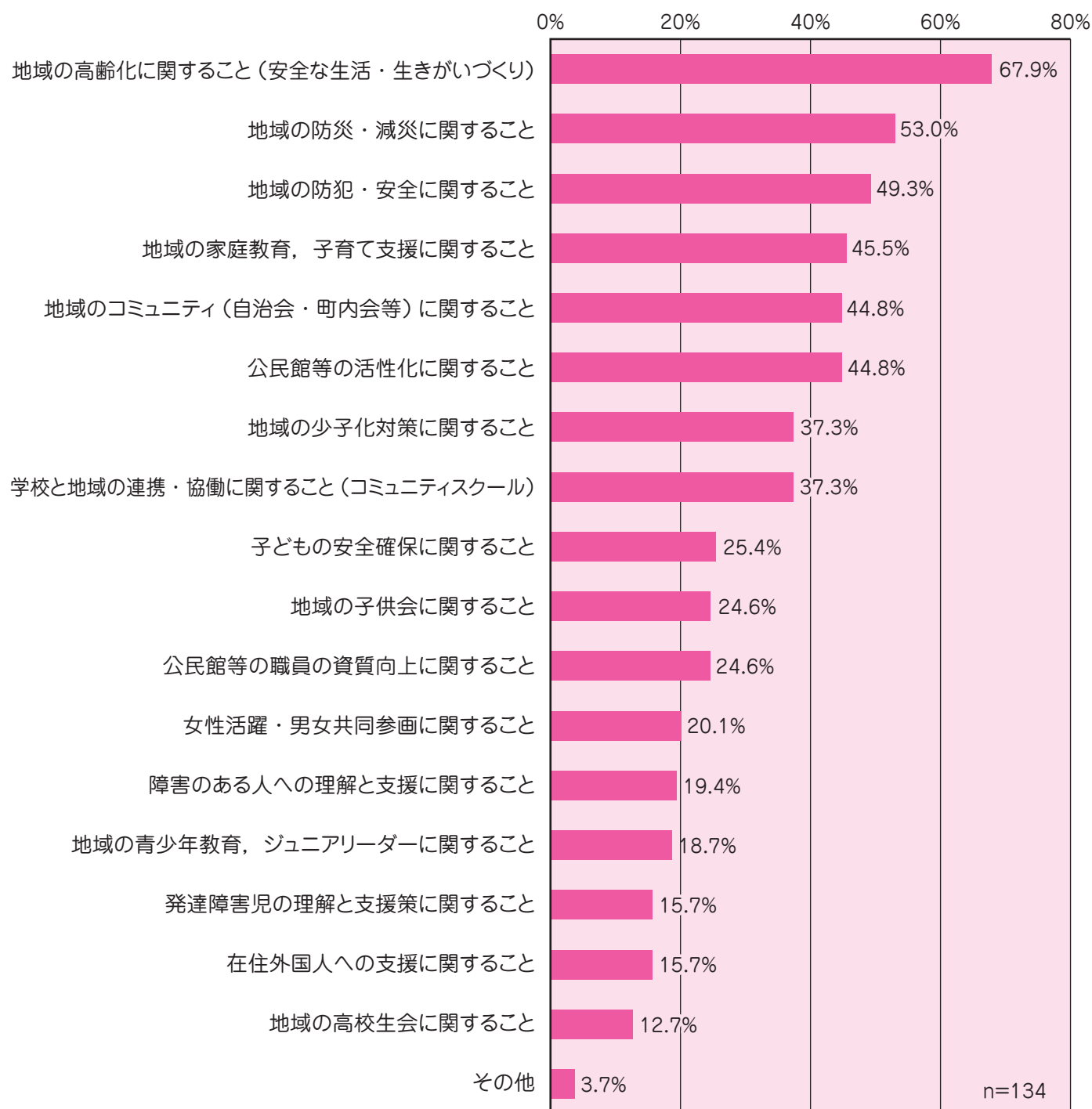


【図2 モデルプログラム実施により、期待される効果】

(3) 地域課題に関する学習として取り組む必要があると考える内容について

- 「地域の高齢化に関すること（安全な生活・生きがいつくり）」、「地域の防災・減災に関すること」、「地域の防犯・安全に関すること」等が上位に挙げられています。

地域課題に関する学習として取り組む必要があると考える内容（複数回答）



【図3 地域課題に関する学習として取り組む必要があると考える内容】

このようなことから、それぞれの課題に対応した効果的な学習プログラムを開発するとともに、各市町村及び公民館等において、地域の実態に応じた学習プログラムを実施し、地域住民への意識啓発やつながりづくりを図っていくことが望まれます。

3 学習プログラムの活用にあたって

(1) 学習プログラム活用の基本的な考え方

事業（講座）を実施する際には、必ずRPDCAサイクルを意識して実施してみましょう。特に、事前の実態把握と、事後の分析と改善が大切になります。



事業（講座）の進め方のポイント

Research 実態把握

- ① 地域の実態から課題をとらえる
- ② 地域住民のニーズを考える

地域の課題と住民のニーズを考慮し、見通し（回数・内容）を立て、できることから積み上げていきましょう。

Plan 目標設定

- ③ 講座の内容を考える
- ④ 講師を依頼する
- ⑤ 参加者を集める工夫をする

企画・講師依頼・広報について、困ったときには、水戸生涯学習センターに相談してみましょう。

Do 実行

- ⑥ 講座を実施する

Check 評価

- ⑦ 成果と課題を分析する

総合的に評価し、今後の方向性を考えましょう。

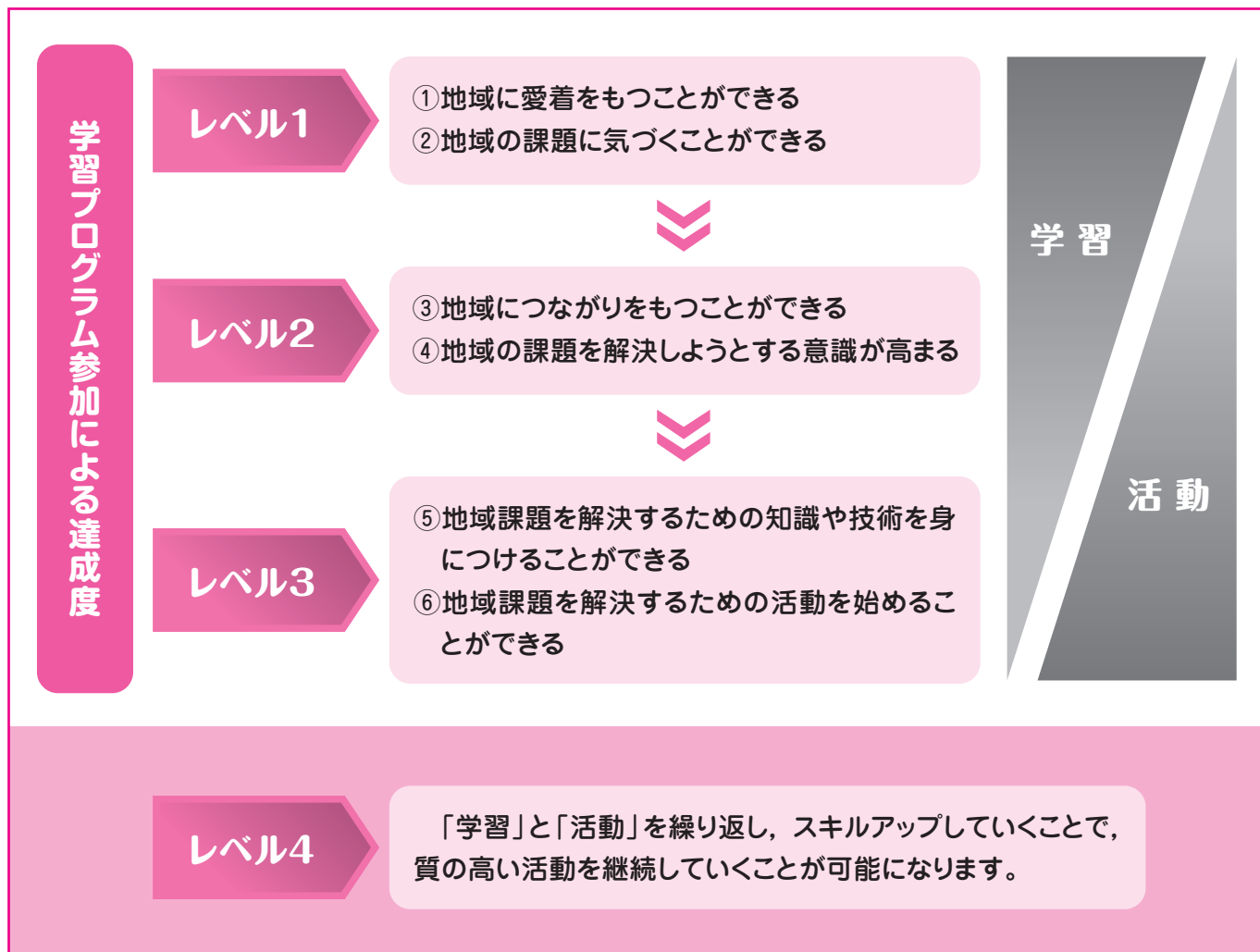
- ・ 効率性（コスト改善）
- ・ 妥当性（対象・手段）
- ・ 成果（意図した成果）
- ・ 満足度（参加者の反応）

Action 改善

- ⑧ 次に必要な学びを考える

(2) 学習プログラムの活用による人材育成

事業（講座）を実施していく中で、学習と活動を繰り返しながら、地域のリーダーが育っていくこと（人材育成）も心に留めて計画を立案していきましょう。



- 学習の成果を地域活動の中で活かすことは
人の役に立つという喜びを感じる → 積極的に地域の活動に参画しようとする熱意がわく →
更なる、課題解決のために新たな学びを求める
という意識の変化と共に、持続的な学びと活動の循環につながっていきます。

※同様の講座を受講していても、個人の経験やキャリア等によって、その講座に期待するものや、達成レベルは異なりますので、日頃からの観察や聞き取りも大切です。
単に講座運営をするのではなく、講座全体を把握する必要があります。

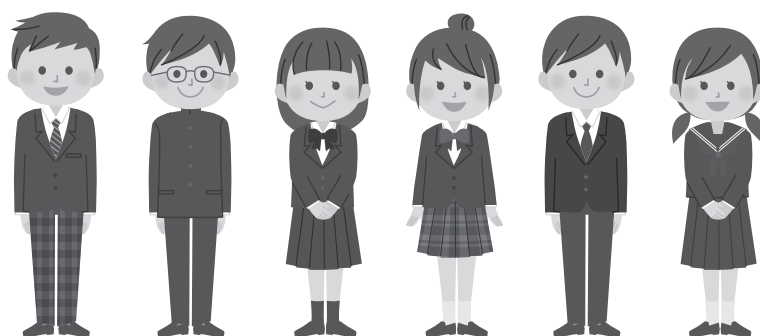
その他の企画を考える時には、
講座企画ハンドブック「つくる・とどける・ふりかえる
やってみよう講座企画」を参照しましょう。



II

モデルプログラム

プログラム名		テーマ					
		公民館等 活性化	家庭教育	学校支援	青少年 教育	現代的 地域課題	市町村 職員支援
1	親力アップを目指す家庭教育学級 ～一人でも多くの保護者に届ける ために～	○	◎				
2	中学生の力を地域に活かす ～ジュニアリーダーの育成を目指 して～	○			◎		
3	地域のニーズに応える総合的な企 画力のアップ ～企画の立て方、ミーティングの 進め方、情報発信のコツ～	○					◎
4	発達障害を理解し、できることを 考えよう		○			◎	
5	地域の本気が子どもを育てる ～地域と共にある学校づくり～			◎	○		
6	高齢者も子どもも生き生きと！ 体験活動をととした地域のつなが りづくり				○	◎	
7	高校生と一緒に学んでみよう！ 災害時のSOS ～防災対策スマホの活用	○			◎	◎	



親力アップを目指す家庭教育学級 ～一人でも多くの保護者に届けるために～

1 現状と課題

- 地域の学習の場である公民館では、公民館へ足を運んでもらえるように、地域住民が参加しやすい講座（人気のある講座）を実施している。
- 学校単位で家庭教育学級を実施しても、保護者の参加率が低い。
- 公民館等では、家庭教育支援に関わる保護者向け講座や活動の実施が少ない。

2 期待される効果

- 公民館において家庭教育に関する講座を実施することにより、公民館を利用することのない年齢層を呼び込むことができる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

公民館を中心とした家庭教育支援体制の充実を図るとともに、子育てに関わる支援の輪を広げる。

(2) 対象者

子育てに関心がある方、保護者、児童

(3) 計画

【親子講座】

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	親子の絆を深めよう！ ～野外炊さん、プロジェクトアドベンチャーの活動から見つけよう～	体験活動	5.5時間	プロジェクトアドベンチャー指導者、 野外炊さん指導者

【保護者向け講座】

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	世界に一つだけのアクセサリを作しましょう ・アクセサリ製作 ・子育て支援 (コミュニケーションの取り方)	創作活動 ワークショップ	2.5時間	鍛金作家、 家庭教育ファシリテーター
2	今、聴いておかないと、きっと後悔する スマホの話	講話 ワークショップ	2時間	メディアリテラシー講師
3	子育てがもっと楽しくなる魔法の方法 (子どもへの言葉遣い、接し方)	講話	2.5時間	臨床心理士、 スクールカウンセラー
4	自らを信じる「力」	講話 ワークショップ	1時間	メディアリテラシー講師、 人権教育講師
5	童心に返って遊びましょう ～子どもとのコミュニケーションUPをめざして！～	ワークショップ (インプロワーク)、 音読	3時間	臨床心理士、 スクールカウンセラー

》実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★実態に応じて、必要なプログラムを組み合わせ活用することができます。
- ★夏季休業日等の子ども向け講座に合わせて保護者向け講座を実施すると効果的です。
参加者増を目指すために、保護者が参加しやすい環境を整えようといでしょう。

(4) 展開例

第5回「童心に返って遊びましょう～子どもとのコミュニケーションUPをめざして！～」

》学習のねらい

インプロワーク、音読など身体を動かす活動を通して、子育ての悩みを「楽しみ」に変えるとともに、コミュニケーション力の向上を図る。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
15分	【導入】 テーマ 「童心に返って遊びましょう～子どもとのコミュニケーションUPをめざして！～」 ●アイスブレイクを行う。 ・見守る者の存在について	・対話力＝雑談力となるよう配慮する。 ・子どもが小さかった頃に伝えた言葉や、自分が子どもの時にかけてもらった言葉について考えてもらう。	・ホワイトボード
65分	【ワークショップ】 ●インプロワークを行う。 ・拍手まわし ・何でもバスケット ・ワンワード ・リフレーミング など  〈インプロワークショップ〉	ポイント インプロワークを展開しながら、子育ての悩みを楽しみに変える具体策を考えられるようにしましょう。 ・コミュニケーションの基本→身体を動かす→身体に触れる一連のプロセスを実施していく。	・おもちゃ ・本 ・カルタ ・キーボード
20分	(休憩)		
45分	●身体を動かしながら音読する。 ・絵本の読み聞かせ ・ことわざカルタ	・読書と体験をいかに深めていくかが大切であることを伝えていく。	
25分	●身体を動かしながら歌う。	・キーボードを使って、気軽に歌えるように配慮する。	
10分	【振り返り】 ●事後の感想を共有する。 ●役割が人を育てることについて ・手伝いのすすめ ・生き抜く力	・集まる機会として「Caféづくり」等を提案する。	

※「インプロ」についてはP21コラム1参照

その他の講座を考える時には
家庭教育学級 親の学びナビを参照しましょう。



中学生の力を地域に活かす ～ジュニアリーダーの育成を目指して～

1 現状と課題

- 中学生は部活動があり、休日でも地域の行事に参加することが難しい。
- 青少年、特に中学生が中心となって企画・運営をする事業や講座について、公民館等においての取り組み事例が少ない。

2 期待される効果

- 中学生が自分たちで考えたアイディアによる企画であるため、主体的に活動できる能力が身に付く。
- 中学生が企画をとおして多くの人とふれ合うことにより、地域を知ることができるとともに、コミュニケーション能力の高まりやリーダーシップの発揮などの資質向上が期待できる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

公民館・市民センター等において、中学生がリーダーとなり、企画・運営していく学習プログラムを開発・提供することで、生きる力を高めるとともに、地域と関わるきっかけづくりとする。また、青少年の教育活動に係る事業の実施に向けて、公民館・市民センター等の職員の資質の向上を図る。

(2) 対象者 中学生（希望者）

(3) 計画

事前準備	・中学生が活動できる事業の洗い出し(フェスティバル, イベント等) ・中学生を勧誘するチラシを作成 ・中学校を訪問して, チラシを配付, 参加の依頼 ・市高校生会担当課と連携を図り, 協力を依頼			公民館・市民センター等 担当者
回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	プロジェクト会議① ・参加者顔合わせ ・事業内容の説明 ・今後の日程 等	会議(研修)	2時間	・青少年健全育成指導者 ・市高校生会担当課 ・高校生会 ・公民館・市民センター等職員 等
2	プロジェクト会議②③ ・ブースで実施したいアイデアの洗い出し, 協議	会議(企画)	2時間	
3	・サンプル品の作成 ・当日の役割分担 等		2時間	
4	プロジェクト会議④⑤ ・フェスティバルのチラシ配付(小学校 等)	会議(準備・運営)	2時間	・公民館 ・市民センター等職員 ・高校生会 等
5	・事前準備 ・リハーサル 等		2時間	
6	生涯学習フェスティバルにおいてブース運営	実践	2時間	

》実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★プロジェクト会議の基本的な企画・準備・運営は中学生が行います（高校生からアドバイスをもらいます）。活躍の場を提供することで、一人一人の意識を高めていきます。
- ★部活動の在り方の変化によって、土日どちらかが休みとなることが多くなっています。休日を活用して、活動することができます。
- ★日程等に関して、前年度のうちに計画を立て、学校と連携・調整していく必要があります。
- ★公民館・市民センター等は職員が少ないため、過度な負担がかからないように、配慮しましょう。

(4) 展開例

第2回「プロジェクト会議②」

》学習のねらい

フェスティバルで実施する企画について協議することで、中学生が当事者意識をもって、意欲的に活動していくことができるようにする。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
20分	【導入】 ●フェスティバルのブースで実施する内容のアイデアを出し合う。	ポイント ・アイデアを自由に出し合えるように、雰囲気づくりをしましょう。 ・ホワイトボードを使って、出されたアイデアを可視化しましょう。	・中学生勧誘用のチラシ ・ホワイトボード
80分	【協議】 ●出されたアイデアについて話し合う。 ●ブースで実施する企画を決定する。 	・可視化されたアイデアから、自主的に進められる企画、フェスティバルにふさわしい企画かどうかを中心に話し合う（高校生からアドバイスをもらいながら行う）。 引き出したい考え 自分たちの力でできることは何か。	・付箋 ・ペン
20分	【まとめ】 ●振り返り ・次回のプロジェクト会議に向けて	・次回の会議内容について確認する。 サンプル品の作成 当日の役割分担 フェスティバルのチラシの配付先や配付方法	

※「ジュニアリーダー」については、P22コラム3 参照

地域のニーズに応える総合的な企画力のアップ ～企画の立て方, ミーティングの進め方, 情報発信の仕方のコツ～

1 現状と課題

- 公民館・市民センター等は、少人数の職員で運営しており、専門の職員は少なく、研修を受けられる機会も限られている。
- 人材が限られていることから、企画・運営等に広がりが見られず、事業がマンネリ化してしまうことが多い。

2 期待される効果

- 講座で学んだことを「事業やイベントの企画づくり」, 「チラシ・ポスターづくり」, 「会議や話し合い」等に活用でき、現場で即活用できる。
- 公民館・市民センター等が活性化し、施設運営の充実が期待できる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

公民館・市民センター等が地域住民や行政組織の他部署と連携するため、職員の総合的な企画力の向上を図る。

(2) 対象者

公民館・市民センター等職員

(3) 計画

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	魅力的な講座づくり	講話 グループワーク	2.5時間	専門的な知識や資格を有している者
2	情報発信力のブラッシュアップ (チラシづくりのポイント)	講話 グループワーク	2.5時間	
3	ファシリテーション入門・ホップ編 ～「みんなが主役」の場をつくる～	講話 グループワーク	2.5時間	専門的な知識や資格を有している者
4	ファシリテーション入門・ステップ編 ～会議・ミーティングの進め方～	講話 グループワーク	2.5時間	
5	ファシリテーション入門・ジャンプ編 ～企画の立て方・動かし方～	講話 グループワーク	2.5時間	

》実施にあたって（工夫点、注意点）

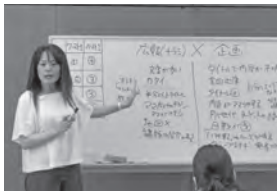
- ★ 1～2回と3～5回の二部構成になっているので、どちらか一方を選ぶこともできます。
また、受講者のニーズに合わせ、回数や時間をアレンジすることも可能です。
- ★ スキルの定着と、さらなるスキルアップを図ることができるよう、講座受講と実践を継続的に実施すると、より高い効果が期待できます。
- ★ 公民館・市民センター等の職員数が少ない場合は、複数の市町村による合同開催や、受講対象を「市町村職員」全体に広げるなどの工夫をすることもできます。

(4) 展開例

第1回～第2回 魅力的な講座づくり，情報発信力のブラッシュアップ

》学習のねらい

企画力・広報力向上のポイントを学び，実践に結びつける。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
第1回	魅力的な講座づくり		
45分	【講話】 ●人の集まらない講座の原因を知る。 ・失敗事例から改善ポイントを導く。	・失敗事例から，人が集まらない講座の原因は，「企画力」と「広報・PR力」の不足であることに気づくようにする。	・配付資料
60分	【ワークショップ】 「企画力向上ワーク」 ●5つのチラシを見比べ，魅力的なチラシの要素を見つける。 	・各グループから出た意見を「企画」「広報」の分野に分け，ホワイトボードに記録していくと整理されやすい。	・ホワイトボード
45分	【講話】 ●「企画力」と「広報力」向上のためにやるべきこと 【振り返り】 ・事業企画のポイントが分かったか。	・ポイントとして， ①対象者を限定すること ②タイトルにこだわること ③ゴールを示すことを押さえない。	・アンケート用紙
第2回	情報発信力のブラッシュアップ		
100分	【ワークショップ】 「企画会議とチラシ作成」 ①模擬反省会 「事例チラシ」の改善点を洗い出す。 ②ニーズのある企画に変え，チラシ(ポスター)を作成し直す。 ③他グループと共有する。 	ポイント ・第1回での学びを活かし，検討・作成するよう意識してもらいましょう。	・「事例チラシ」(集客少の事業) ・模造紙 ・水性ペン
40分	【講話】 ●手にとってもらえるチラシ作りのポイントとは何かをまとめる。	引き出したい考え ・対象者に合った人の心を捉えやすい言葉，デザイン ・認知率の低い言葉はタイトルに使用しない ・イラストを有効活用 ・タイトルは紙面の上部3分の1が勝負 ・対象者に合った広報媒体，申込方法を活用	・アンケート用紙
10分	【振り返り】 ・自分の事業に活かすことができそうか振り返る。		

発達障害を理解し、できることを考えよう

1 現状と課題

- 近年、子どもたち一人一人の個性を尊重し、自主性・自立性を育む中で、子どもたちと関わる機会の多い方々が自閉症スペクトラム等の発達障害について理解を深め、その子の特性にあった接し方をする必要が高まっている。
- 学校の教員等は研修を受ける機会が多いが、それ以外の子どもたちと直接関わっている方を対象とした発達障害に関する研修を受ける機会は少ない。

2 期待される効果

- 市町村主催の活動の指導者、青少年相談員、民生委員、児童委員等だけでなく、自分の子どもの対応に迷っている保護者の参加を得ることができる。
- 発達障害のある子どもをもつ保護者、関わる者同士のつながりができる。
- グループワークによる情報交換をととして、互いの不安感を減少させることができる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

子どもたちと直接関わる機会が多い方々が発達障害について基本的な知識を身につけ、子どもたち一人一人に対して適切な関わり方ができるようにする。

(2) 対象者

発達障害のある子どもと関わる在住・在勤者

(3) 計画

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	発達障害とは 「こんな子どもに 出会ったことはありませんか？」	講話	2時間	専門的な知識や資格を 有している者、 大学教授等
2	発達障害のある人への支援 その1 ～幼児期・学童期を中心に～	講話 グループワーク	2時間	
3	発達障害のある人への支援 その2 ～思春期を中心に～	講話 グループワーク	2時間	

》実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★必要な講座のみ実施することができます。また、1回の講座の時間を3時間とし、回数を2回にして同様の内容を確保することができます。
- ★一般の方も参加できるように休日に実施しましたが、スポーツ少年団等の指導者については、多くの団体が午前中に活動しているため参加が難しいようです。開催時間を工夫するとよいでしょう。
- ★グループワークを取り入れた講座内容であるため、参加人数が限られてしまいます。希望者が全員参加できるような会場で実施することについても考えてみるとよいでしょう。

(4) 展開例

第3回「発達障害のある人への支援その2～思春期を中心に～」

》学習のねらい

思春期の発達障害の特性を理解し、それに対処するプログラムやスキルを学び、個に応じた適切な関わり方を身に付ける。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
45分	【講話】 ●発達障害のある子どもたちの思春期の主な特性について (学校、家庭、地域などで起こる具体的事例より) ●療育プログラムについて ・作業に取り組むスキル ・仲間とつながるスキル ・相手の気持ちに配慮しながら自己主張するスキル 等	ポイント 特性から生じる具体的な困り感をいくつかの事例から理解していくようにしましょう。	・配付資料
45分	【ワークショップ】 ●当事者への支援として、どのような工夫やどのように接することが必要であるかを考える。	ポイント 発達障害のある方に接するときは、相手を良く理解して、その相手に合った支援を行うことが大切であることをおさえましょう。	・付箋紙 ・模造紙 ・ペン
30分	【講話・まとめ】 ●就労に関すること ・障害者差別解消法 ・就労時の対応 ・支援方法の例 ・雇用にあたっての配慮 等 ●人間関係をよりよくするマッサージ法 ・顔や首、体をほぐす 等  ＜落ち着かせるマッサージ＞	・将来を見据え、就労について必要な知識を学べるようにする。 ・言葉かけだけでなく、身体をほぐすマッサージなどをとおして、信頼関係をつくるきっかけとなることを知ることができるようにする。	・マット

※「障害者差別解消法」については、P21コラム2 参照

地域の本気が子どもを育てる ～地域と共にある学校づくり～

1 現状と課題

- 各市町村教育委員会の取り組みにより、徐々に学校運営協議会が設置されてきていることから、これまで以上に、地域と学校の連携・協働を図る必要がある。
- 地域の自治会や子供会等の形骸化が見られ、地域住民が地域で子どもたちを育てていくという意識が低くなってきている。

2 期待される効果

- 学校運営協議会で話し合ったことを土台としたワークショップを行うことで、自分たちの地域でできることを深めたり広げたりすることができ、当事者意識の醸成とネットワーク作りのきっかけとなる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

学校と地域が育てたい子ども像を共有し、一体となって子どもたちの豊かな成長を支える活動に取り組むことをとおして、地域社会全体で子どもを育てる意識の醸成を図る。

(2) 対象者

中学校区の教職員（保育所・幼稚園・認定こども園、小・中学校）、保護者、5,6年児童（希望者）、学校運営協議会委員、地域住民・団体等

(3) 計画

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等	対象
1	小中学校運営協議会 ・学校運営協議会の役割 ・地域で目指す子ども像について	会議（研修）	2時間	主任社会教育主事	学校運営協議会委員
2	学校と地域をつなぐ研修会 「目指す子ども像の実現に向けて 地域でできること」	会議	2時間		教職員、保護者、 学校運営協議会 委員、地域住民
3	野外宿泊体験活動 ・段ボールハウス作り ・ドラム缶風呂、流しそうめん等	体験活動	2日	地域おこし協力隊、 高校生会、 消防分団	児童、 PTA父親委員会、 地域住民等
4	活動報告（掲示物）	自由見学 ※授業参観時	2時間		児童、保護者

》実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★学校と地域が「目指す子ども像」の考えを共有することで、同じ意識を持って子どもたちの健全育成に取り組むことができます。
- ★体験活動は、地域の実態に応じた内容で実施することが望ましいです。
- ★体験活動や研修会に、より多くの地域住民や団体に参加してもらうために、広報の仕方などを検討する必要があります。

(4) 展開例

第2回「学校と地域をつなぐ研修会」

》学習のねらい

学校と地域が目指す子ども像の意見を共有することで、一体となって子どもたちの豊かな成長を支えていこうとする意識の醸成を図る。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
15分	【導入】 ● 学校運営協議会会長の話を聞く。 ・ 運営協議会の活動と今後の取り組みについて ● ウォーミングアップを行う。 ・ アイスブレイク 等 ● ワークショップの約束について確認する。	・ ワークショップのグループの構成メンバーは、地域側と学校側の参加者をバランスよく構成する。 ・ ワークショップは、多様な意見が出るように自由な雰囲気で行う。 ポイント ワークショップのルール（発言や考えを否定しないなど）を活かして、ねらいとなる話し合いを進めましょう。	
80分	【ワークショップ】 テーマ 「〇〇な子どもを育てるために学区で今後やりたいこと・できそうなこと」（安全や学習支援など、分野を分けながら模造紙にまとめ、できそうなことを具体的に話し合う。）  ＜ワークショップの様子＞	・ 事前（第1回）の運営協議会で出された「地域で目指す子ども像」をもとに今後の取組について話し合う。 引き出したい考え 地域住民が多く参加でき、ネットワークが広がりそうな活動は何か。	・ 付箋 ・ ペン ・ 模造紙
25分	【まとめ・振り返り】 ● 各グループの発表を聞き、全体で共有する。	・ 出されたアイディアを運営協議会で検討し、実施していく。	

※「学校運営協議会」については、P23コラム4 参照

※地域学校協働活動、学校運営協議会等については、文部科学省「地域学校協働活動 地域と学校でつくる学びの未来」パンフレット（サイト）を参照してください。



高齢者も子どもも生き生きと！ 体験活動をととした地域のつながりづくり

1 現状と課題

- 全県的に人口減及び少子・高齢化が進んでいる。
- 地域の担い手の確保が難しい。

2 期待される効果

- 三世代と一緒に体験活動を行うプログラムをととして、子どもたちの郷土愛や生きる力を育むうえで、より豊かな学びの機会を提供でき、地域への帰属意識を高めることができる。
- ニュースポーツの特性を活かすことで、高齢者も子どもたちも元気に活動することができ、同じ地域の一員として対等な関係で交流を図ることができる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

- 地域の中学生や日頃地域に関わることの少ない親世代(父親)などがつなぎ役となり、三世代交流の体験活動をととして、自己有用感を高め、地域への愛着を深める機会とする。(人材育成)
- 子どもたちと地域住民等の交流をととして、高齢者が子どもたちに寄り添い、活躍できる場を設定することにより、生きがいつくりにつなげる。(地域の活性化)

(2) 対象者

小学生、中学生、地域の方、高齢者

(3) 計画

	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
体験活動1	「三世代交流体験活動」 地域のつながりづくりのきっかけとなる 三世代交流の体験活動	体験活動・ グループ	2時間	専門的な知識や資格を 有している者
体験活動2	「地域のみんなとつながろう」 地域と関わるのが少ない親世代に参加 を促し、地域のつなぎ役としてのきっか けづくりとなる体験活動	体験活動及び 座談会	2～3時間	地域での活動に 取り組んでいる団体

》実施にあたって(工夫点、注意点)

- ★事前に実行委員会等の打合せを行い、ねらいについて共通理解を図るようにしましょう。
- ★活動を楽しむだけでなく、地域の子どもたちから高齢者までが、つながることができるきっかけづくりを工夫しましょう。

(4) 展開例

第1回「三世代交流体験活動 ～ニュースポーツ体験教室～」

》学習のねらい

ニュースポーツをととして三世代が活動し、地域のつながりのきっかけづくりとする。

	内容	出席者	留意点
第1回 実行委員会	- 三世代が一緒に楽しめる種目を選定する。 - 会場の確認や役割分担等について打合せを行う。	(実行委員) ・日曜子ども教室スタッフ ・PTA役員 ・部会員(地域学校協働活動推進員, 小・中学校教頭, 市生涯学習課職員等) (講師) レクリエーション講師	- つなぎ役を検討する。 - 参加者や会場の実態を考慮して、種目を選ぶ。
第2回 実行委員会	- 中学生とグループリーダーとしての配慮事項について確認する。 - リハーサルを行い、ルールその他、場づくりや道具の扱い方を確認する。	(実行委員) ・日曜子ども教室スタッフ ・PTA役員 ・部会員 (講師) レクリエーション講師 (協力) 地域の中学生	- 活動のねらいをおさえる。 - 活動のリハーサルを行い、当日自信をもって取り組めるようにする。 - 意見交換や質疑応答の場を丁寧に扱うようにする。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
受付後	【準備】 ●チームの決定	・各チームに三世代が入るようにチーム編成を工夫する。	
30分	【練習】 ●種目ごとに、講師よりルール説明を聞き、練習を行う。 ・オーバルボール ・競技輪投げ ・ラダーゲッター	ポイント ・中学生には、チームリーダーとしてメンバーへの積極的な声かけを促し、意欲を高めましょう。 ・小学校低学年向けに表示等を配慮する。	・各種目の用具 ・記録表 (記入用・掲示用)
75分	【体験】 ●3種目をA～Iのチームがローテーションしながら対戦する。(25分×3回) 	・チームのメンバー同士でアドバイスをしたり、応援したりするよう促す。 ・時間に余裕ができた場合の対応として、種目を予備に用意しておく。 (今回はユニカール)	
5分	【感想発表と振り返り】 ●体験の結果発表 ●感想発表 ●記念撮影	引き出したい考え ・中学生が地域のよさに気づく。 ・中学生がリーダーとして活躍することによって、自己有用感を高める。 ・点数だけでなく、つながりづくりに貢献している姿を紹介する。	

高校生と一緒に学んでみよう！災害時のSOS ～防災対策スマホの活用

1 現状と課題

- 公民館・市民センター等では、例年、定着した講座を実施していることが多い。人材や予算が課題となっており、新たな講座の企画が難しい。
- 高校生会の主な活動は、市町村のイベントのサポート等が多く、地域課題に関する取り組みは少ない。
- 災害時における高齢者をはじめとする地域住民間の情報格差が懸念される。

2 期待される効果

- インターネットが生きていくための情報を得る命綱にもなり得る時代において、インターネットやパソコン等のICT機器を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差の解消を図ることは、住民の安全や命を守ることにつながる。
- 若者が、地域の課題解決に主体的に関わることは、主権者意識の涵養にも資するものであり、よりよい社会を創っていく資質・能力を育むことができる。

3 モデルプログラム

(1) 目的

防災に関する学習機会の提供をととして、地域の拠点としての公民館・市民センター等の活性化を図る。地域課題に主体的に関わる活動をととして、高校生会の活性化を図る。

(2) 対象者

60歳以上の市町村在住者

(3) 計画 ※スマートフォンの表記は、以下「スマホ」とする

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	スマホの基本操作 ・インターネットの使い方 ・懐中電灯の使い方 ・QRコードの読み取り方 ・市町村メールの登録	講話, 実習	2時間	専門的な知識や資格を有している者, 高校生会（アシスタント）
2	防災対策 ・情報の確保 ・身の安全の発信	講話, 実習	2時間	

》実施にあたって（工夫点、注意点）

- ★事前に、受講者のスマホ操作のスキルや、機種は何であるかを把握しておくこと、高校生会のサポートをより円滑に進めることができます。
- ★受講者への高校生会のサポートは、一対一の対応が望ましいでしょう。
- ★高齢者が対象となるため、学習内容と時間にゆとりをもたせ、安心して取り組めるようにすると良いでしょう。

(4) 展開例

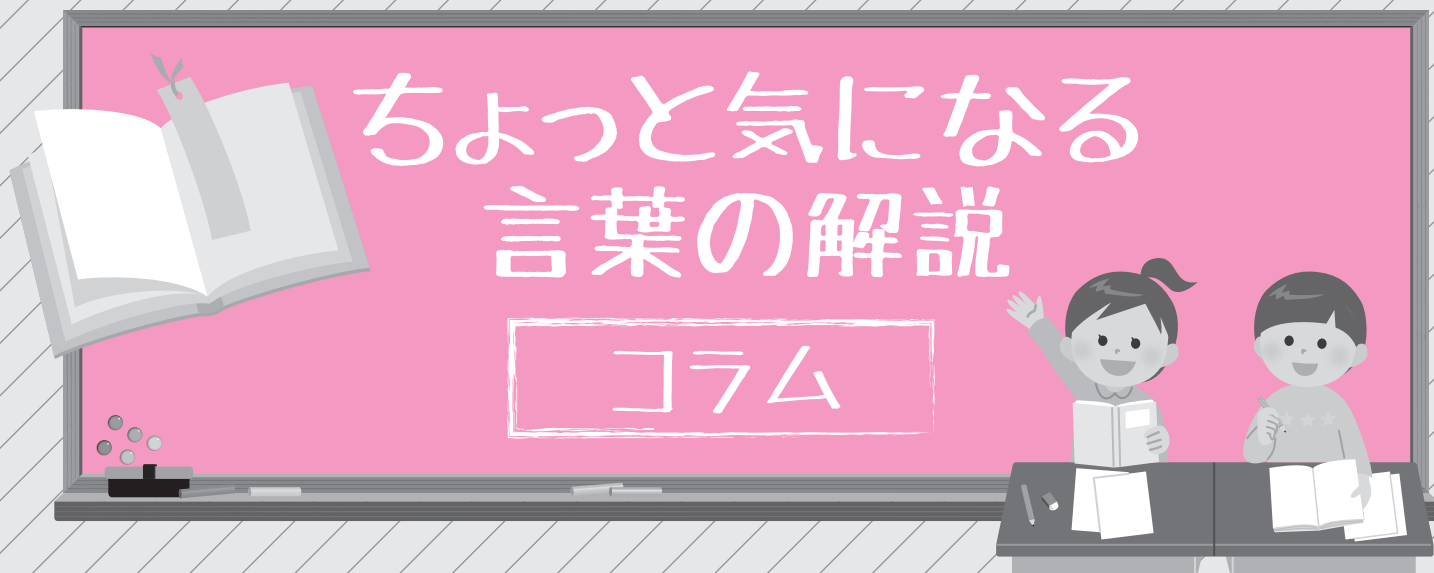
第1回～第2回 スマホの基本操作, 防災対策

》学習のねらい

スマホの操作に慣れ、災害時に備えた情報収集の仕方及び身の安全の発信ができるようにする。高校生会の生徒が、ICTスキルを活かした地域課題に寄与する活動に主体的に取り組む。

時間	学習の流れ	留意点	準備物
第1回	スマホの基本操作		
30分	【導入】 ●学習の流れについて 3つの観点から防災対策のスマホ活用方法について学ぶ。 ・身を守る ・情報を得る ・情報を伝える ●アプリ体験（ポーリング） 受講者と高校生のコミュニケーションを図る。	ポイント 事前に、講師から高校生が講座の展開についてレクチャーしてもらい、安心して活動に取り組めるようにしましょう。 受講者のスマホ操作の個人差と、高校生会の生徒一人一人の意識や特性に配慮した組み合わせを考えましょう。	・配付資料 ・タブレット
90分	【実習】 ●インターネットの使い方 …＜情報を得る＞ ・検索方法とお気に入り登録 ●懐中電灯（スマホ内蔵ライト）の使い方とモバイルバッテリーの説明…＜身を守る＞ ●QRコードの読み取り方、使い方 ・「いばらきアマピエちゃん」の登録等 ●市町村メールの登録 …＜情報を得る＞	・受講者と高校生が対面になってしまうことがないように注意を促し、手指の消毒等をこまめに行い、感染症防止に配慮する。 ・事前に、講師と高校生が打ち合わせをしておき、受講者が、双方の話を分かりやすく聞くことができるようにする。 （講師の指示⇒高校生のサポート） 	・スマホ（各自持参） ・モバイルバッテリー（サンプル）
第2回	防災対策		
100分	【実習】 ●防災アプリの活用 …＜情報を得る＞ ・アプリのインストール、設定、使い方 ●SMS（ショートメール）の使い方 …＜情報を伝える＞ ・実際にメールのやり取りを行う。 ●災害伝言ダイヤルの紹介 …＜情報を伝える＞	ポイント 実習の時間にゆとりを持たせるようにし、受講者がスマホ操作を途中であきらめてしまうことのないよう配慮しましょう。 ・パスワード設定、電話番号履歴の削除等、個人情報取り扱いについては、十分配慮する。	・配付資料 ・スマホ（各自持参）
20分	【まとめ・振り返り】 ●実習した内容の確認、アンケート記入	・アンケート結果を事業改善に活かす。	・アンケート用紙

※「高校生会」については、P22コラム3参照



コラム①

インプロとは…

Improvisation(インプロヴィゼーション)の略。日本語では「即興」という意味です。演劇・音楽・アートなど芸術分野における表現手法のひとつで、台本なしで「その場で創作する」ことで、思考と創作が同時に行われます。

インプロはもともと俳優のトレーニングとして開発されたものですが、現在ではエンターテインメントとして教育のツールとしても活用されています。そこで、講座を展開する上で、一人一人の意見を話し合う機会として、活用することができるでしょう。

コラム②

障害者差別解消法とは…

国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、平成25年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(いわゆる「障害者差別解消法」)が制定され、平成28年4月1日から施行されました。

この法律の目的は、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することです。

※詳細については、内閣府の
ホームページを参照してください。



コラム ③

子供会，ジュニアリーダー，高校生会とは…

1. 子供会とは…

就学前の幼児から高校3年生相当までを構成員とした異年齢の集団です。仲間と活動を共有することによって，個や集団の望ましい成長を意図したコミュニティ活動です。地域を基盤とし，仲間集団のもつ形成力と，活動(経験)を通しての成長を統合し，よりたくましい子どもや，集団を実現しようとする活動でもあります。

子どもの発達にとって不可欠な経験を与えることを目的としており，家庭・学校はもとより，地域の諸機関・諸集団と強い連携を保ちながら，活動を進めていくことが大切です。

2. ジュニアリーダーとは…

子どもたちへの指導者・助言の内容，子供会活動の中で担う責任の範囲，状況を判断する力量などからみて中学生，高校生(同年齢相当の者)をいいます。

なお，ジュニアリーダーは，他の指導者や育成者の補助的機能を果たすものではなく，独自の指導的役割をもって子供会活動を導くものです。

その主なものは，次のとおりです。

- ①仲間づくりのよき理解者として，その推進に当たるとともに，自らの成長を図ること
- ②班活動の具体的，実践的な指導に当たり，会員の積極的参加を促進すること
- ③集団指導者の指導のもとに，会長，班長など役員の活動を援助すること

※子供会，ジュニアリーダーの詳細については，
公益財団法人全国子ども会連合会ホームページを参照してください。



3. 高校生会とは…

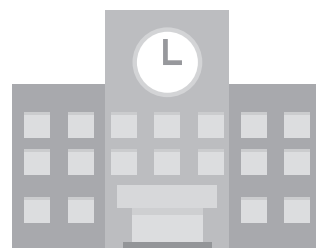
当該市町村在住または当該市町村内の高等学校に通学する高校生によって構成されるボランティア団体です。当該市町村教育委員会等の支援のもと，子供会行事や市町村の主催事業の補助指導者として活動しています。

	就学前	小学生	中学生	高校生
子供会				
ジュニアリーダー				
高校生会				

若者の活動を継続的に支援していくことが，「**地域の人材づくり**」につながります

地域学校協働活動(地域学校協働本部)と 学校運営協議会を一体的に推進していくには…

地域学校協働活動を進めるにあたっては、まず関係者によるビジョンや目標の共有を行うことが重要であり、学校運営協議会における協議や熟議等がその役割を果たします。その結果を踏まえ、幅広い地域住民の参画により効果的に地域学校協働活動を行うことにより、子供たちの教育活動の充実や活性化が期待できます。



平成29年3月の地教行法の改正により、学校運営協議会において「学校運営への必要な支援について協議すること」、「学校運営協議会の委員として地域学校協働活動推進員等の学校運営に資する活動を行うものを任命すること」が追加されたことを踏まえ、学校運営協議会と地域

学校協働本部が円滑に連携し、両者の機能を効果的に高めていくため、地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員として学校運営に必要な支援に関する協議に参加するなど、普段からコミュニケーションや情報共有を行うことが重要です。

また、地域学校協働活動が効果的かつ適切に行われているか、活動が学校における教育活動や地域の活性化に資するものとなっているかなど、両者の連携により活動に関する振り返りを行い、次年度の地域学校協働活動に反映させることにより、PDCAサイクルを機能させていくことが重要です。

地域学校協働本部と学校運営協議会は、それぞれが持つ役割を十分に機能させることで両輪としての相乗効果を発揮し、学校運営の改善に結び付けることが期待されます。

※詳細については、文部科学省「コミュニティ・スクール2018～地域とともにある学校づくりを目指して～」パンフレットを参照してください。



III

Q & A 「こんなときどうするの?」

Q1

講座を企画するときに
大事なことは何だろう?

P25

Q2

講座のアレンジは
できるのかな?

P30

Q3

どうすれば人が
集まるのかな?

P31

Q4

どんなふうに講師を
依頼すればいいのかな?

P32

Q5

事業(講座)の
評価は?

P33

Q1

企画をする上で 大事なことは何ですか。

A1

講座受講後のゴールのイメージから考え、その目的を達成するために必要な内容を計画していきましょう。

どんな人に参加してもらいたいのか、どんな内容で展開するかなど、具体的にイメージできると良い企画となるでしょう。

家庭教育・子育て支援のプログラムを
参考にして考えてみましょう。

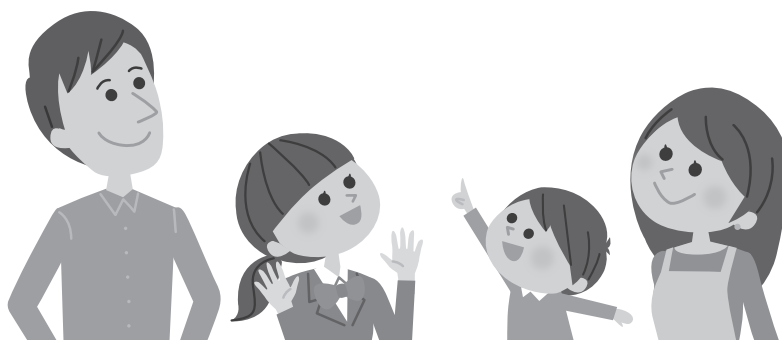
P7
参照

回数	学習内容・活動	学習形態	時間	講師等
1	世界に一つだけのアクセサリを作しましょう ・アクセサリ製作 ・子育て支援（コミュニケーションの取り方）	創作活動 ワークショップ	2.5時間	鍛金作家、 家庭教育ファシリテーター
2	今、聴いておかないと、きっと後悔する スマホの話	講話 ワークショップ	2時間	メディアリテラシー講師

（茨城県水戸生涯学習センター「公民館・市民センター等の活性化のための支援プログラム」より）

第1回「世界に一つだけのアクセサリを作しましょう」では、参加者が、きれいなアクセサリを作ることが目的ではなく、創作活動をとおして、参加者同士が気軽に話せる関係づくりに重点を置いています。

楽しめる活動を入れることによって、今まで参加したことがない保護者に参加してもらう良い機会となるでしょう。



A 地域の実態やニーズに合った企画を考えてみましょう。

日頃から、地域住民と情報交換し、どのような課題があるか、どのような事業（講座）が必要であるか考えましょう。

防災・安全、高校生会の活性化のプログラムを参考にして考えてみましょう。

P19
参照

地域課題

地域の
高齢化



災害の
不安



スマホ
活用



高校生の
活動



課題に対応する講座

「高校生と一緒に学んでみよう！災害時のSOS
～防災対策スマホの活用」

期待される効果

- ・「命を守る」生涯学習・社会教育
- ・ICT活用，デジタル・ディバイド解消
- ・若者の地域・社会への主体的な参画

また、参加者が、講座にどのようなことを期待しているか、考えてみましょう。専門的な内容であれば良い事業（講座）というわけではありません。効果的な方法を取り入れましょう。

- ・「知識を習得したい」…講演会，研修会
- ・「情報交換をしたい」…ワークショップ
- ・「実践から学びたい」…体験活動 など

A

**分かりやすく、興味を引くような見せ方を工夫しましょう。
当事者意識をもって参加できるような学習内容が良いでしょう。**

どのような内容にすると参加したいと思うのか、考えてみましょう。

ポイントを分かりやすく伝え、「自分も参加できる」「役に立ちそう」という思いにつながる
ことが大切です。

雰囲気が先行してしまったり、ぼんやりとした表記で伝わらなかったりすると、「期待してい
た内容ではなかった」というように、参加者を残念な気持ちにさせてしまうことになるため、注
意したい点です。

広報（チラシ・SNS等）の工夫

- 対象者の年代等に配慮し、キャッチーで分かりやすいタイトルがよいでしょう。
- 詳細は、簡潔なリード文で、目的がしっかりと伝わるように入れましょう。
- QRコードによる閲覧、申込みフォーム等の工夫など、申込みが簡単で分かりやすいこと
も大切です。

学習内容の精選

- 対象の年代・職業・スキル等の条件に配慮し、適切な回数、時間、学習量とし、安心
して学ぶことができるようにしましょう。

**参加者の目的が明確になる
「どのようなことを学び、何に役立てるのか」**



当事者意識が高まる



満足度につながる





ワークショップ等を活用することで、より深い学びが期待できます。

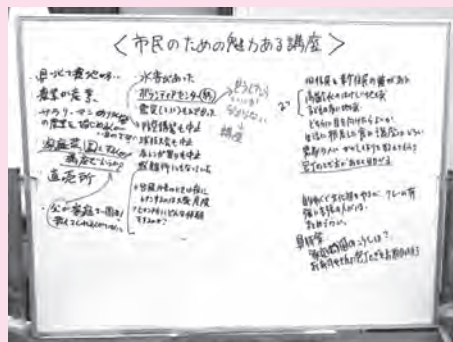
あくまでも手法ですので、ワークショップを行えば良い講座になるというわけではありません。ねらいに近づけるために必要であるか検討することも大切です。

参考

ホワイトボードを活用したミーティング

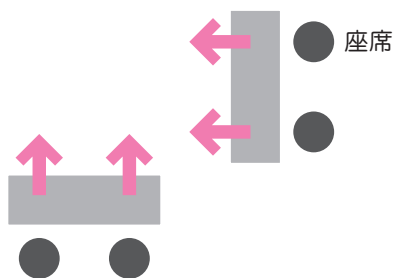
- ・可視化することで、共通理解を図りながら話し合いを進めることができるため効果的です。特に、企画時に適しています。
- ・ソーシャルディスタンスを保って、実施することが可能です。

- ①意見を出し合う ➡ もとになる意見を黒色で記述し、情報を共有する。
- ②出された意見を方向付ける ➡ 赤色で重要なポイントを押さえる。
- ③具体的な行動や活動計画を決める ➡ 青色で整理していく。

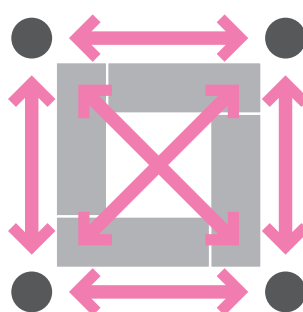


※ワークショップを行う場合は、講座の途中で参加者に場を設定させることを避け、講座のスタート時から、その場所に座ってもらうようにしましょう。聞こえにくい場合があるため、1会場のグループ数に配慮しましょう。

例1 2人で話す場合



例2 4人で話す場合



A 「オンライン」で行う学習と「対面」で行う学習の有効性を考慮しながら、それぞれの学習を取り入れたり、組み合わせたりしましょう。

様々な理由により、会場に来ることができない講師については、オンライン学習に適したソフトを活用して学習機会の提供を行うことができます。

それは、参加者の自宅または、生涯学習関連施設等（サテライト）で受講が可能です。

反面、環境が整っていないければ受講ができないこと、特定のソフトを活用してグループワークを行うことができても、全体を把握することや参加者同士のつながりづくりが難しいなどの課題があります。

参考

生涯学習関連施設を会場としたサテライト講座

- ・ 知識・理解に関する学習内容については、オンラインで講義を受けることは有効です。
- ・ 個別の対応や簡単なワークショップを行ったりする場合は、会場にコーディネーターを配置することで、話し合いをスムーズに進めることが容易になります。



（茨城県水戸生涯学習センター主催「社会から孤立させないための支援ボランティア育成講座」より）



Q2

講座のアレンジは どうすればいいですか。

A2

このモデルプログラムを全て実施しなければ効果がないというわけではありません。地域の実態や予算，スケジュールに合わせた講座を行うことが適切です。

〈例〉

- ◆モデルプログラム講座の中から，市町村の現状等に応じて必要な回数に変更して実施することができます。（大洗町6回実施→茨城県3回実施）
- ◆予算を抑えたい場合は，行政や公共施設の方を講師に招聘し，ワークショップ等を担当職員（社会教育主事等）が行うという方法もあります。
- ◆モデルプログラムをもとに，一部分の講座を新たに企画することも可能です。

アレンジが難しい場合や，地域の実態に応じて新たな企画で行いたい場合は，茨城県水戸生涯学習センターに相談してみましょう。

テーマ	プログラム名	H29	H30
		大洗町	茨城県
		1 親子の絆を深めよう！～野外炊さん・プロジェクトアドベンチャーから見つけ出す（親子講座）	※ 6回講座のうち3講座を実施
家庭教育 / 子育て支援	育てよう！公民館で親力アップ～家庭の教育力を高めるために～	1 アクセサリー製作及び子育て支援（コミュニケーションの取り方） 「世界に一つだけのアクセサリーを作しましょう」	1 アクセサリー製作及び子育て支援（コミュニケーションの取り方） 「世界に一つだけのアクセサリーを作しましょう」
		2 家庭教育に関する講話・ワークショップ 「今，聴いておかないと，きっと後悔するスマホの話」	2 家庭教育に関する講話・ワークショップ 「今，聴いておかないと，きっと後悔するスマホの話」
		3 家庭教育に関する講座（子どもへの言葉遣い，接し方）「子育てがもっと楽しくなる魔法の方法」	3 家庭教育に関する講座（子どもへの言葉遣い，接し方）「子育てがもっと楽しくなる魔法の方法」
		4 家庭教育に関する講話・ワークショップ 「自らを信じる「力」」	
		5 ワークショップ（インプロワーク） 「童心に返って遊びましょう」～子どもとのコミュニケーションUPをめざして！～	

（茨城県水戸生涯学習センター「公民館・市民センター等の活性化のための支援プログラム」より）

Q3

どのようにすれば たくさんの方が集まりますか。

A3

講座を実施する際に、

- 参加してほしい人はどんな人たちなのか、対象をしっかりと押さえておきましょう。

講師にとっては、対象者を絞り込んでいる方が、内容を深めることができるため、参加者の満足度も高くなります。また、幅広い対象の場合は、意識啓発を目的とした学習内容等が適しています。(フォーラム、講演会等)

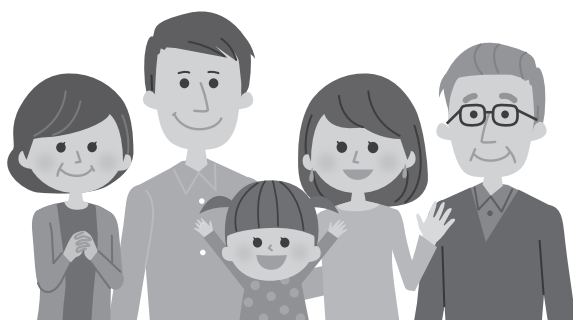
- 参加しやすい環境を整えましょう。

実施時期や時間帯、会場、駐車場、託児など、一工夫することで参加しやすくなります。

- 対象となる人たちにスムーズに情報が届くよう広報しましょう。

チラシ・ポスター、市町村報掲載、SNS、集客サイト等、様々な広報の仕方があります。事後アンケート等を活用して、その効果を検証すると良いでしょう。

- 講座の中に、楽しみながら学べる内容、生活や仕事に役立つ内容、親子や家族で参加できる内容などを盛り込み、参加者の気持ちを高める工夫も必要です。



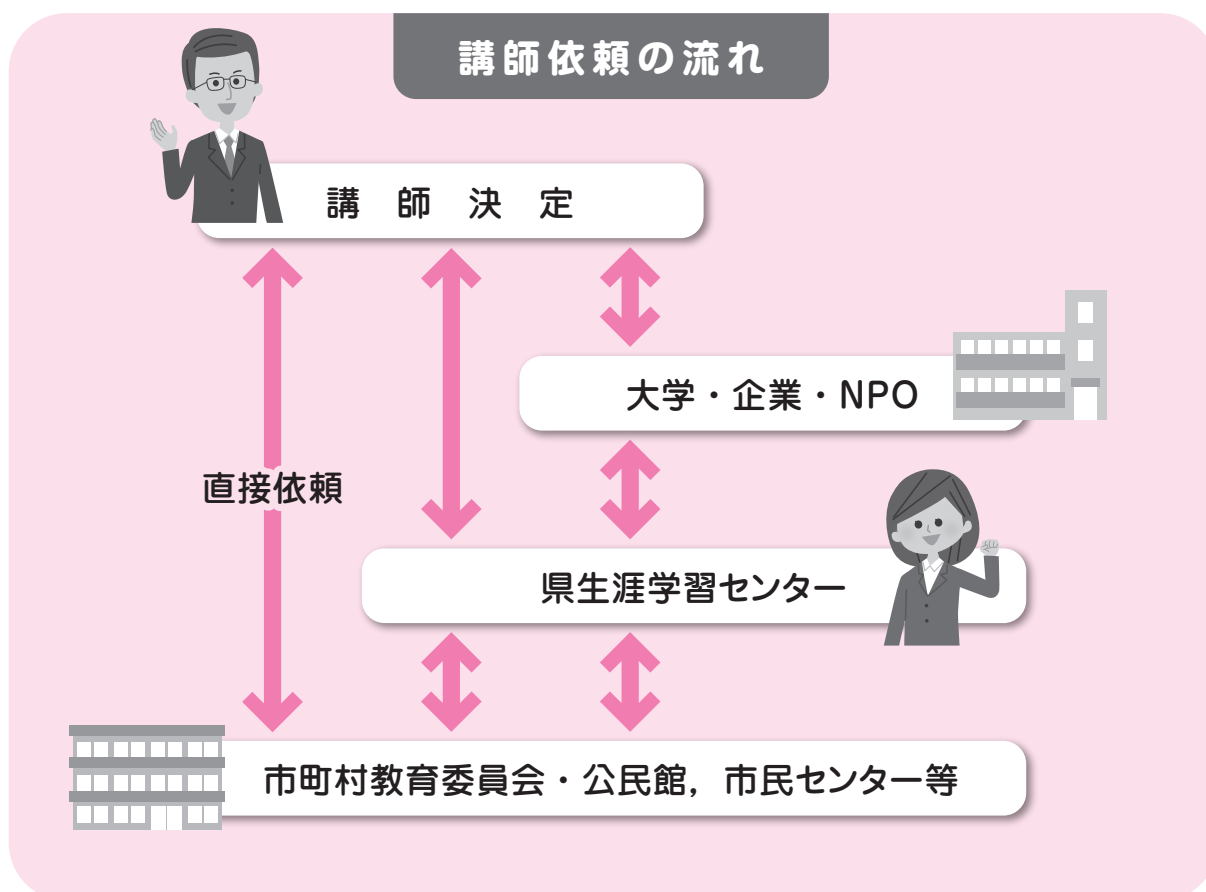
Q4

講師の依頼は どうすればいいですか。

A4

講座の内容に応じた講師を選定することで、参加者の学習が深まり、満足度も高まります。

- ◆ 専門家（大学等の学識経験者，教員等）
- ◆ 地域人材（行政・公共施設，NPO団体，企業，ボランティア等）



講師の情報等が少ない場合は，県生涯学習センターに相談をしてみましょう。



Q5

実施した事業（講座）の評価は、 どのように捉えればいいですか。

A5

事後のアンケート調査は、必要な項目を柱立てし、それぞれ選択肢によって回答できるようにすると、集計やデータの比較が容易になります。

各設問の「その他」などは、短い文章で記入できるようにし、最後に自由記述欄を設けましょう。プラスの回答だけでなく、少数のマイナスの意見も事業に役立つことがありますので、押さえておきたいところです。

また、講座中の参加者の表情を観察したり、講座修了後に参加者の声を聞き取りしたりすることも大切です。

さらに、事業を総合的に評価してみましょう。

- ①効率性・・・コスト改善の余地はあるか
- ②妥当性・・・対象・手段等は妥当か
- ③成果・・・意図した成果が上がっているか
- ④満足度・・・参加者の反応はどうか

併せて、今後の方向性を考えましょう。

事業（講座）実施にあたり、ほかの疑問があった場合には、茨城県水戸生涯学習センターへお問い合わせください。



1 令和元年度調査研究・学習プログラム開発・普及事業
「いばらき地域応援プログラム」（令和元年度3月）

- I 「いばらき地域応援プログラム」について
- II 学習プログラム（コラム）
- III Q&A



2 家庭教育学級「親の学びナビ」（平成24年3月発行）

- I 家庭教育学級を進める皆さんへ
- II 家庭教育学級プログラム例
- III 家庭教育学級講座実践例
- IV 家庭教育学級領域例



3 講座企画ハンドブック「つくる、とどける、ふりかえる」
やってみよう講座企画（平成28年3月発行）

- PART 1 講座企画のステップ
- PART 2 講座企画のステップアップ
- PART 3 学習プログラム実践例



4 令和2年度学校支援に係る学習プログラム開発事業
長期休業期間、土日等の休業日等に学校での
総合的な学習の時間×社会教育施設 活用の手引き
（令和3年3月発行）

- I 学校支援プロジェクトについて
- II モデルプログラム
- III Q&A こんなときどうするの？
- IV 参考資料



令和2年度 指定事業 調査研究・学習プログラム開発・普及事業に係る 委員及び部員一覧

【調査研究・学習プログラム開発・普及委員会】

	氏名	所属・役職	担当
1	伊藤真木子	青山学院大学 コミュニティ人間科学部 コミュニティ人間科学科 准教授	委員長
2	松橋 義樹	常磐大学 人間科学部 教育学科 助教	副委員長
3	松崎 英政	茨城県水戸教育事務所 学校教育課 主任社会教育主事	
4	飛田 雅大	東海村教育委員会 青少年センター 社会教育主事	
5	武井 悠希	茨城町教育委員会 生涯学習課 主事	
6	伊村 英美	城里町常北公民館 社会教育指導員	

【検証部会】

	氏名	所属・役職	担当
1	松崎 英政	茨城県水戸教育事務所 学校教育課 主任社会教育主事	部会長
2	埴 将生	ひたちなか市教育委員会 青少年課 主事	
3	大竹 一久	ひたちなか市市民生活部 生涯学習課 主任	
4	根本 初江	小美玉市文化スポーツ振興部 生涯学習課 課長補佐	
5	武井 悠希	茨城町教育委員会 生涯学習課 主事	
6	桑野 智弘	城里町教育委員会事務局 生涯学習グループ 係長	
7	仲田 明弘	城里町教育委員会事務局 生涯学習グループ 主事	
8	伊村 英美	城里町教育委員会事務局 城里町常北公民館 社会教育指導員	

【事務局】

	氏名	所属・役職
1	小沼 公道	茨城県水戸生涯学習センター 所長
2	川村 靖	茨城県水戸生涯学習センター 次長
3	長谷川 馨	茨城県水戸生涯学習センター 副参事兼企画振興課長
4	篠崎 昌子	茨城県水戸生涯学習センター 企画振興課 主任社会教育主事
5	田山 善堂	茨城県水戸生涯学習センター 企画振興課 主任社会教育主事
6	佐藤 竜也	茨城県水戸生涯学習センター 企画振興課 社会教育主事
7	白井 秀樹	茨城県水戸生涯学習センター 企画振興課 社会教育主事

令和2年度 指定事業「調査研究・学習プログラム開発・普及事業」
『いばらき地域応援プログラム』

令和3年3月発行

編集・発行

公益財団法人茨城県教育財団 茨城県水戸生涯学習センター
〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38茨城県三の丸庁舎3階
TEL 029-228-1313 FAX 029-228-1633

URL <http://www.mito.gakusyu.ibk.ed.jp/>

E-mail lifelong@mito.gakusyu.ibk.ed.jp

Facebook <https://www.facebook.com/mitoshougai/>

Twitter twitter.com/mitoshougai/

